

台湾の後期中等教育課程における日本語教育の現状と課題 —高級中学日本語科での調査結果から—

戸川美恵子・陳 曉 迪

(育達科技大學) (新竹市私立光復高級中學)

0. はじめに

台湾では1996年以降、後期中等教育（「高級中学」と呼ばれる日本の高等学校に相当する教育段階）に日本語教育が導入・推進されている。国際交流基金による「日本語教育国・地域別情報」

(<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/index.html>) の2018年度日本語教育機関調査結果によれば、中等教育機関における日本語学習者は54,551人であり、学校教育以外を含む全教育機関での日本語学習者数（170,159人）の32.1%を占めている。これは70,433人で同41.4%を占める高等教育機関での日本語学習者よりは少ないものの学校教育以外での日本語学習者数（42,601人）を上回っており、台湾の日本語教育が（後期）中等教育と高等教育とを中心に展開されている状況が窺える。なお、中等教育での日本語学習者数は、統計のうえでは2015年以降減少傾向にあるが、これは台湾で顕著な少子化の影響（分母そのものが減っているため）と考えられ、日本語教育のニーズが低下しているというわけではない。

1990年代後半以降、後期中等教育と高等教育とを中心に行なわれてきた台湾の日本語教育は、現在、新たな転換点を迎えようとしているという指摘（岡本2018：3）がある。学齢期人口の減少によって後期中等教育での日本語学習者には漸減傾向が見られるが、日本語学習のニーズは依然として高く、年齢においては初等教育から生涯教育へと拡張され、機関においては学校以外へと移行していく可能性があるという。また、内山（2018）では、後期中等教育で日本語を学習した者が高等教育で日本語専攻を志望しなくなっている傾向や日本語学習が日系企業などへの日本語

を活用した就職志望に結びついていない点が指摘されている。

そのなかで、台湾の日本語教育の現状を捉えるためには、後期中等教育課程での日本語教育について調査・分析する必要があるものと考えられる。台湾の後期中等教育課程は、一般教育において普通教育の系統と職業教育の系統との2系統が併行するが、後者の教育機関である高級商業職業学校での日本語教育については、岡本（2017）によるアンケート調査に基づいた分析がある。本稿では、普通高級中学（普通科を設置する高校）の職業類科における日本語教育の現状と課題について、学習者のアンケート調査と現場の教員へのインタビュー調査の結果の報告を中心に述べたいと考える。

1. 調査概要

1.1. 調査方法と調査対象

台湾の私立高校日本語科において、学習者を対象とするアンケート調査（調査紙は中国語）と教員を対象とするインタビュー調査とを行なった。

アンケート調査の対象は台湾の私立高校日本語科の1～3年次に在籍する学生192人である。対象者の具体的な内訳を表1に示す。

表1 調査対象者の内訳

学年	女性(人)	男性(人)	合計(人)
1年	38	12	50
2年	51	31	82
3年	41	19	60
合計	130	62	192

また、調査対象者の日本語学習歴は次頁表2の通りである（3年女に無回答1を含む）。

また、参考までに2019年度のモデル時間割を表5～7に示す（網掛けが日本語科目）。

表5 1年次後学期のモデル時間割

節、曜	月	火	水	木	金
1	日本趣味 文學選讀	英文	數位生活	公民	數學
2	日語聽講 入門練習	英文	數位生活	美術	數學
3	國文	數學	體育	國文	日語文型 練習
4	公民與 社會	數學	體育	國文	日語聽講 入門練習
5	日本文化	生命教育	地理	生涯規劃	團體活動
6	日語文型 練習	商業概論	商業概論	日本文化	團體活動
7	數學	地理	美術	英文	團體活動
8	數學	健康與 護理	國文	英文	全民 國防教育

表6 2年次後学期のモデル時間割

節、曜	月	火	水	木	金
1	文化基本 教材	國文	商業概論	日本文書 處理	數學
2	日語語法	國文	日語語法	日本文書 處理	數學
3	商業概論	計算機概 論	計算機概 論	體育	英文
4	英語會話	計算機概 論	計算機概 論	體育	野外求生
5	英文	日語聽講 練習	英語會話	日語會話	綜合活動
6	英文	日語聽講 練習	日文閱讀 與翻譯	數學	綜合活動
7	日文閱讀 與翻譯	日語會話	日語會話	數學	班會
8	數學	日文閱讀 與習作	日語會話	日文閱讀 與習作	國文

表7 3年次後学期のモデル時間割

節、曜	月	火	水	木	金
1	電腦網路 原理	國文	電腦網路 原理	國文	國文
2	電腦網路 原理	日文閱讀 與寫作	電腦網路 原理	數學	英文
3	數學	日語聽講 練習	體育	英文	選修課程
4	日語聽講 練習	日語語法	體育	英文	選修課程
5	英文	日語會話	日文閱讀 與寫作	專題製作	綜合活動
6	英文	日語會話	日文閱讀 與寫作	專題製作	綜合活動
7	日語聽講 練習	日文翻譯	國文	數學	班會
8	數學	日文翻譯	日語語法	數學	商業概論

なお、台湾の高校では8時10分に始業し、10分（昼休みは55分）の休憩を挟んで50分授業が午前4節・午後4節の計8節実施され、16時45分に放課となる。また、授業は月曜日から金曜日までで土曜日と日曜日は休みである。

2. 調査結果

2.1. 日本語に興味を持った時期

日本語に最初に興味を持った時期についての回答は表8のようである。

表8 日本語に最初に興味を持った時期

	1年生		2年生		3年生		
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	
幼稚園				1		1	
小学校	8	2	9	3	3	8	
中学1年	1	1	4	1	1	1	
中学2年	5	1	6	5		6	1
中学3年	5	1	11	7		13	6
高校1年	19	7	15	9	15	6	
高校2年	—	—		2			
高校3年	—	—	—	—	1		
興味なし			2	1			
無回答			1	2	1		

日本語に最初に興味を持った時期については、中学3年生～高校1年生に回答が最も集中しており、高校進学を考えるタイミングであったことが窺える。

なお、小学校とする回答では、低学年（1～3年）が9人、高学年（4～6年）が21人、そのほか（特定の学年の記載なし）が3人であった。小学校低学年と小学生未満（幼稚園）を合わせても11人（5.7%）であり、小学校高学年頃から少しずつ日本語に興味を持つ者が出てくると見ることができよう。

2.2. 日本語に興味を持ったきっかけ

日本語に興味を持つきっかけとなったもの（複数回答可）についての回答は次ページの表9のようである（2年男に無回答1を含む）。

表9 日本語に興味を持つきっかけとなったもの

	1年生		2年生		3年生		合計		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
日本のアニメ	20	6	24	22	23	15	67	43	110
日本旅行	16	4	27	8	14	9	57	21	78
日本の歌	20	2	17	15	15	7	52	24	76
日本の漫画	13	4	15	16	15	12	43	32	75
日本のドラマ	14	3	26	10	16	6	56	19	75
日本料理	18	2	15	7	12	6	45	15	60
YouTubeなどの動画	15	3	14	11	9	7	38	21	59
日本のゲーム	8	7	8	15	9	7	25	29	54
日本のテレビ番組	9		11	5	9	4	29	9	38
日本の歌手	10		9	9	5	5	24	14	38
日本人との交流	13	1	10	4	4	4	27	9	36
日本の俳優・女優	7		8	5	7	6	22	11	33
日本の小説	3	1	9	9	4	5	16	15	31
日本のタレント	6		4	3	2	2	12	5	17
日本語に興味はない		2	5	5	3		8	7	15
その他	3	1	3				6	1	7

その他の回答内容としては「日本の伝統文化」という回答のほか、「好きなグループが日本の市場で頑張っているため」「日本の声優」という芸能に関するもの、「比較的簡単だと思ったから」「日本語の字が可愛いと思ったから」という日本語自体に関するもの、「英語が好きではないから」「高校の日本語科に進学したから」という消極的なものが見られた（それぞれ1回答）。

日本のサブカルチャーへの興味や関心が日本語学習の動機になることは、これまでもしばしば指摘されてきた。しかし、内山（2008：32）では、国策として推進される韓国のコンテンツビジネスに押され、日本文化はアニメ・漫画・ゲーム以外で競争力を失いつつあると指摘されている。今回の調査でも、日本語に興味を持つきっかけとなったものとしては、男女を通じてアニメが最多であり、漫画やゲームという回答も多かった。なお、アニメには、その他の回答にも含まれていたように、作品そのものへの興味だけでなく声優への興味や関心も含まれているものと思われる。同様に、日本の歌の中にも声優などが歌うアニメ音

楽が含まれているだろう。一方で、日本のテレビドラマも、日本の俳優・女優やタレントを含め、特に女性において根強い支持を得ていることもわかった。

内山（2018：33）では、「アニメ・動画やゲームの日本語字幕を見て、声優がパーソナリティを務めるラジオ番組を聴いている」ことが日本語の効果的な学習法として学習者の間に認識されると指摘されているが、日本語に興味を持つきっかけとしてもYouTubeなどの動画が地位を上げつつあると言ってよいだろう。

そのほか、日本語に興味を持つきっかけとなったものとして注目されるのは、日本旅行や日本料理（台湾には本格的な日本料理店から台湾に現地化された日本料理である「日式料理」までを含めた多くの日本料理店や屋台がある）、日本人との交流といった直接の異文化接触体験である。台湾は世界で最も親日的な国のひとつとされ、地理的な距離も近いことから、人間や文化の往来が盛んであることが日本語への興味の背景にあるという結果であろう。

2.3. 日本語科に入学した理由

高校の日本語科に入った理由（複数回答可）についての回答は次ページの表10のようである。

その他の回答内容としては「日本車」と具体的な興味の対象を示したものの、「先輩からの勧め」「母が私は日本語に興味があると思っているため」といった自分以外の理由、「もう1つできる言語を増やしたいから」「別の専門を学びたいから」といったマルチスキル化、「格好をつけるため」といったものがあつた（それぞれ1回答）。また、具体的な回答のないものが2回答あつた。

日本語に興味を持つきっかけとなったものと同じく、日本のアニメへの関心が首位となった。また、日本語の字幕が理解できるようになりたいという動機も多いなど、日本のサブカルチャーへの興味や関心が高校で日本語科に進学する主要な理由になっていることがわかる。また、日本旅行での実用性をあげる回答も多く、総じて日本語の趣味的な用途が想定されていると言えるだろう。

表10 どうして日本語科に入ったか

	1年生		2年生		3年生		合計		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
日本のアニメが好き	18	6	24	20	22	13	64	39	103
日本旅行で役に立つ	21	6	24	10	11	6	56	22	78
日本旅行が好き	22		19	10	15	10	56	20	76
日本の漫画が好き	13	3	14	16	18	11	45	30	75
日本の歌が好き	16	2	16	13	13	5	45	20	65
日本のドラマが好き	10		24	10	15	6	49	16	65
動画やテレビ番組の字幕を理解したい	13	4	18	8	11	7	42	19	61
日本料理が好き	15	4	18	9	10	6	43	19	62
日本文化に興味がある	15	3	15	10	13	6	43	19	62
日本語のゲームが好き	9	7	9	12	9	8	27	27	54
日本人の動画が好き	16	2	15	9	6	5	37	16	53
ゲームの字幕を理解したい	13	6	10	8	9	5	32	19	51
日本人の友だちが作りたい	13	5	14	9	6	4	33	18	51
英語が嫌い	12	1	14	9	5	3	31	13	44
日本人と知り合いになりたい	13	2	10	10	5	4	28	16	44
日本の歌手が好き	9	1	11	8	6	5	26	14	40
家族の勧めで	5	2	11	6	8	1	24	9	33
日本のテレビ番組が好き	9		7	5	7	4	23	9	32
日本の俳優が好き	9		7	5	4	6	20	11	31
将来日本に留学したい	10		7	5	5	2	22	7	29
日本の小説が好き	3	1	10	5	4	5	17	11	28
将来日本で働きたい	8	1	4	7	2	1	14	9	23
日本語に興味はないが成績の関係で	4	2	10	2	3		17	4	21
日本のタレントが好き	5		5	2	1	2	11	4	15
将来日本語に関する仕事がしたい	3		9	1	1	1	13	2	15
将来仕事が見つけやすい	4	2	2	2	1	2	7	6	13
その他	2	2	2	2	3		5	4	9

他方、一見して、就職を理由に挙げたものは少ないことがわかるが、「将来日本語に関する仕事がしたい」の選択肢に関して、具体的な進路の記入があったものでは、通訳・翻訳者が5回答、秘書、寿司職人、声優、ゲーム制作者がそれぞれ1回答であった。

また、日本語に興味はないが成績の関係でという回答には、自分の成績で入れるだろう高校・学科から現在の日本語科を選んだ場合と、志望していた高校・学科が不合格になった結果として現

在の日本語科に進んだというものが含まれている。

2.4. 日本語への興味・関心

前節では、日本語に興味はないが成績によって日本語科に進学した（せざるをえなかった）という回答があることを見た。ここでは、今現在日本語のどの程度興味・関心があるかについて質問した結果を表11に示す（3年男に1、3年女に2無回答を含む）。

表11 現在、日本語に興味があるか

学年	非常に ある	ある	少し ある	あまり ない	ほとん どない	まった くない
1年女	7	10	20	1	0	0
	18.4%	26.3%	52.6%	2.6%	0.0%	0.0%
1年男	2	1	7	1	0	1
	16.7%	8.3%	58.3%	8.3%	0.0%	8.3%
2年女	4	8	28	8	2	1
	7.8%	15.7%	54.9%	15.7%	3.9%	2.0%
2年男	3	9	13	3	0	2
	10.0%	30.0%	43.3%	10.0%	0.0%	6.7%
3年女	3	5	12	16	1	3
	7.5%	12.5%	30.0%	40.0%	2.5%	7.5%
3年男	2	3	10	2	1	1
	10.5%	15.8%	52.6%	10.5%	5.3%	5.3%
合計	21	36	90	31	4	8
	11.1%	18.9%	47.4%	16.3%	2.1%	4.2%

日本語に興味があるとする回答とないとする回答を比べると、それぞれ77.4%と22.6%になる。しかし、「非常にある」「ある」とする積極的な回答の合計は3割に過ぎず、「少しある」とする消極的な回答がほぼ半数となっている。

日本語に興味がない（「あまりない」「ほとんどない」「まったくない」）と回答した者に対して、その理由を尋ねた結果が次ページの表12である（複数回答可）。

日本語に興味がない原因としては、日本語学習の難しさを挙げるものが最も多い。他には、もともと日本語に興味がなかったり、他のもの比べて興味薄いというものが多。日本語科の入学で就職に関する理由を選んだ者は少なかったのと同様に、日本語が将来の役に立たないかという理

表12 日本語に興味がない原因は何か

	1年生		2年生		3年生		合計		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
日本語学習は難しい	1	1	10	5	17	3	28	9	37
別のことに興味がある		1	4		6	2	10	3	13
日本語学習はつまらない		1	5	1	2	1	7	3	10
元々日本語に興味がない		1	4	1	3		7	2	9
将来したいことと日本語は関係がない		2	2	2	2		4	4	8
将来役に立たない気がする		2		1	1		1	3	4

由は少ないことがわかる。

日本語学科に在籍して日本語を学びながら日本語に興味がない者がいるという事実は残念ではあるが、この点については現場の教師へのインタビューで高大接続に関する構造的な問題点が指摘された。具体的には以下のようなことである。

台湾では、大学入試で「統測」と呼ばれる統一テストがある。大学等の日本語学科に進学する際は「統測」の日本語試験を受験する必要があるが、日本語能力試験のN2レベルが出題基準となっている。日本語科の学生は、高校から日本語学習を始める場合がほとんどであり、大学受験までは2年半の準備期間しかない。その期間でN2レベルに到達するためには、かなり早いペースで学習を進めなければならない。授業はどうしても文法中心の詰め込み式にならざるをえない。また、近年「統測」で読解問題の比率が大きくなったことも詰め込み式の教育を助長する結果となっている。そのため、大学進学を希望する学生や日本語能力が高くN1レベルの授業内容を要求する学生には適合するが、そうでない学生たちが日本語への興味を失っていき、落ちこぼれていってしまうという現実がある。しかし、「統測」がN2レベルであり、クラス内に進学希望者がいるかぎり、N4レベルなどに合わせた指導をすることは難しい。

大学入試について、「統測」がN2レベルの日本語を要求することについて、現場の高校教師からは批判が強い。実際に大学等の日本語学科に入

学すると、50音から学習するプログラムデザインになっているからである。もちろん、一定の日本語能力があれば初級の授業は免除される。しかし、大学がそれにかわる上級者用のクラスを用意するわけではないため、同じ授業料を払って受講できる授業数が減るだけになっているのである。

では、日本語学科に在籍している学生のうち、大学進学を希望するものはどの程度いるだろうか。高校で日本語を学習している目的について尋ねた結果（複数回答可）を表13に示す（3年女に無回答2を含む）。

表13 日本語を学習している目的は何か

	1年生		2年生		3年生		合計		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
進学のため	14	5	16	5	10	1	40	11	51
就職のため	16	4	12	7	7	2	35	13	48
現在は特にない	15	8	26	20	27	14	68	42	110
その他	7		7	5	1	2	15	7	22

その他の回答内容としては「日本旅行に行くため」が5回答と最多で（「日本に行った時に便利」を含む）、「できる言語を1つ増やすため」の2回答が続き、ほかは「外国語を学びたい」「ことばが好き」「将来のため」「英語を学ぶ方法を学ぶため」「英語が好きではない」「日本語が好き」「日本語の基礎を学ぶため」といった言語的な理由、「ジャパンドリームを叶えるため」「将来の留学のため」「格好をつけるため」といった積極的な理由、「卒業するため」「家族の要求」といった消極的な理由がそれぞれ1回答ずつであった。

表13からわかるように、延べ人数で約4分の1の学生が進学を希望している。一方、半数の学生は現在は特に目的はないと回答しており、学生のニーズが大きく分かれていることが知られる。この点については、現場の教師へのインタビューでも、日本語学習の目的が様々でどこにポイントを合わせればいいのか分からなくなることがあるという意見が寄せられた。高校での日本語教育の目的は一体何なのかと考えてしまうことが多いようである。

進学を希望する学生に具体的な目標（複数回答可）を尋ねた結果が表14である。

表14 進学後の具体的な目標

	1年生		2年生		3年生		合計		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
大学の日本語学科に進学	27	8	30	11	15	7	72	26	98
進学した大学の日本の姉妹校へ留学	6		8	3	7	5	21	8	29
日本の大学に進学	11		4	3	6	2	21	5	26
大学卒業後に日本の大学院に進学	3		2	2	1	1	6	3	9
その他	6	2	12	15	16	1	34	18	52
無回答		2	3	4	6	4	9	10	19

その他の回答内容としては、「特に目標はない」が21回答と最も多く、具体的な記入なし(13)、「大学で日本語学科以外に進む」(6)、「考え中」(5)、「他の人よりも競争力を身につける」(2)、「日本に遊びに行く」(2)と続き（カッコ内は回答数）、「資格をとる」「ワーキングホリデーで日本に行く」「少しでも良い大学に入学する」が1回答ずつであった。

この結果から、進学を希望する学生では、大学進学自体が目的となっていて、その後の具体的なイメージを持つに至っていないことが窺える。

一方、就職を希望する学生の具体的な目標は何であろうか。その結果（複数回答可）をまとめたのが表15である（無回答16を含む）。

表15 就職後の具体的な目標

	1年生		2年生		3年生		合計		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
いい会社に就職したい	20	7	26	10	15	2	61	19	80
給料の高い仕事に就きたい	12	6	21	11	14	3	47	20	67
日本企業と関係がある会社で働きたい	11	8	9	9	10	5	30	22	52
日本で働きたい	13	1	13	5	6	6	32	12	44
日系企業で働きたい	11	5	14	5	7	2	32	12	44
翻訳の仕事がしたい	13	2	8	8	7	1	28	11	39
貿易の仕事がしたい	9	1	8	6	9	5	26	12	38
ガイドになりたい	3	4	6	2	7	2	16	8	24
通訳の仕事がしたい	6	2	2	6	6		14	8	22
その他	8	1	5	10	6	2	19	13	32

就職希望の場合の回答を見ても、「いい会社に就職したい」「給料の高い仕事に就きたい」「日本で働きたい」といった漠然としたものが多く、具体的なイメージは持っていないようである。

2.5. 日本語の授業について

表16は日本語の授業の中で好きな授業は何か尋ねた結果である（複数回答可）。

表16 好きな日本語の授業

	1年生		2年生		3年生		合計		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
会話練習	26	9	20	13	20	10	66	32	98
聴解練習	19	5	23	16	13	8	55	29	84
読解練習	16	5	19	10	7	6	42	21	63
翻訳練習	12	7	15	7	10	3	37	17	54
文法学習	13	4	11	6	7	6	31	16	47
ビデオ作成	1	1	8		7	3	16	4	20
PPT作成	4	2	5	1	4	2	13	5	18
作文練習	5	1	6	3	1	1	12	5	17
レポート作成	1	2	4	1	5	2	10	5	15
ない	1			2	4		5	2	7
その他		1	7	4		2	7	7	14
無回答			1	3	3	1	4	4	8

その他の回答内容としては、「日本のドラマを見る」「日本語の動画を見る」がそれぞれ4回答と最も多く、「マルチメディア」が3回答、「すべてよい」が1回答、具体的な記入なしが2回答であった。ドラマや動画、マルチメディアという回答がなされたことについて、教師へのインタビューで、学生の嗜好を考慮して日本のドラマなどを聴解練習で週1回の授業にとりいれているという話があった。また、聴解授業では全員がヘッドホンを使って練習できる設備のある特殊教室を利用するなどの工夫もされている。

この結果からわかることは、学生が応用的な内容よりも基礎的な練習を含む授業を好んでいることである。特に、会話練習を最も好んでいるという結果が出ているが、一方で日本語の中で得意なものは何かと尋ねた結果（複数回答可）が次ページの表17である（無回答8を含む）。

表17 日本語で得意なものは何か

科目	会話	作文	聴解	読解	文法	翻訳	その他
1年女	9	0	11	13	11	6	12
1年男	4	0	3	6	2	2	2
2年女	10	0	8	19	2	9	18
2年男	11	0	9	9	4	9	9
3年女	9	0	8	13	2	10	10
3年男	5	0	3	7	0	4	3
合計	48	0	42	67	21	40	54

その他の回答内容としては、「なし」が9回答、「単語を覚えること」が3回答あったほかは具体的な記入がなかった。

この結果から、学生は会話練習を最も好む一方で、読解が最も特だと感じていることがわかる。この点について、教員へのインタビューでは、大学入試に対応するために文型・文法や最近では読解のための文法や語彙の授業を重視せざるを得ず、会話など日本語の運用能力を高める授業をする時間的余裕がなくなることを残念に思っているという意見があった。

また、日本語の中で苦手なものは何かと尋ねた結果（複数回答可）が表18である（無回答4を含む）。

表18 日本語で苦手なものは何か

科目	会話	作文	聴解	読解	文法	翻訳	その他
1年女	13	25	15	10	19	16	2
1年男	4	10	3	4	5	7	1
2年女	27	40	28	21	33	26	2
2年男	11	23	15	13	17	15	3
3年女	17	30	15	15	28	10	7
3年男	6	10	3	6	10	6	1
合計	78	138	79	69	112	80	16

その他の回答内容としては、「なし」が1回答あったほかは具体的な記入がなかった。

作文が最も多い結果になったが、一般に書くことは4技能のうちでもっと遅れて発達するものと考えられており、得意なもので0回答であったことと合わせても妥当な結果と言えるのではないかと。

得意なものと苦手なものとはいずれも複数回答可としたが、1人あたりの回答数が得意なもので1.18、苦手なもので2.96となっており、得意と感じるより苦手と感じる部分が多いことがわかる。

授業の内容について、教員へのインタビューでは、以下のような意見が得られた。

1年生から『みんなの日本語』を使用しているが、教科書の日本語は日本人が日常的に使用する自然な日本語とは言えない文も少なくない。現在は、以前に比べて日本人と直接会話をする機会も増えており、学生にはできるだけ自然な表現を身につけて欲しいと思っている。そのため、他により適当な教科書や教材がないかと常に考えてはいるが、『みんなの日本語』以外に現実的な選択肢がないのが現状である。また、『みんなの日本語』に限らず、台湾人教師では、教科書や教材の中の日本語が自然な日本語であるかどうか直感的に判断できないという問題もある。そのため、教科書や教材に沿った指導をした結果、不自然な日本語の文を毎日生徒に教え、繰り返し練習させることになってしまっているのではないかという疑問が尽きない。

『みんなの日本語』については、2019年度から導入された新しい教育政策との整合性でも問題が生じているようである。具体的には、インタビューで以下のような意見が得られた。

教育部の政策が「108課網特色課程」へと変わったことに伴って、高校のカリキュラムも見直されることになった。以前の基準は『言語の4機能』に基づくもので、聞く力、話す力、読む力、書く力を養成するためのカリキュラムであったが、新しいカリキュラムではより細かな区分をする必要がある。以前は大まかな括りの科目名であったため、授業内容にも比較的融通が利き、どの科目でも学生のレベルや到達度に合わせて、その都度必要なことを教えることができた。しかし、教育部の新しい政策で、日本の地理、日本の歴史

史、日本の地域文化の紹介などと科目が細かく設定されるようになったため、どうしても科目名に沿った内容の授業をせざるを得ず、細かな調整がきかなくなってしまう。また、そもそもの学習内容が多岐にわたるため、週40時間の授業で『みんなの日本語』と両立できるのかという問題もある。一方で、大学入試の「統測」はこれまでと変わりなくN2レベルで出題されるため、この新しいカリキュラムに沿って授業を行なうと肝心の日本語能力がN2レベルに到達しない恐れもある。もし従来の方で授業時間が足りなくなるようであれば、『みんなの日本語』は使用せず、例えば速成型の別教材に変える必要性が出てくるかもしれない。

台湾教育部（日本の文部科学省に相当）の教育政策については、上記のような批判・疑問が聞かれる一方、日本語科目以外の重要性も認識されている。例えば、以下のような意見である。

日本語を学習しながら日本文化を学ぼうという授業はあるが、一方で自文化について学ぶ機会というのは少ない。そのため、日本人たちに台湾のこと、地域の地域のことを紹介しようとした時に、何をどう紹介していいかわからなくなるということが起きる。自文化を日本人にきちんと説明するためには、日本語をしっかりと学習するだけでなく、説明する内容についてもきちんと知っておかなければならない。最近では、日本語の授業の中で地域の観光スポットや代表的なグルメについて紹介するビデオ作成をさせたりしている。その結果、学生たちも地元のものや地元のものを紹介することに興味を示すようになり、中国語と日本語の間で、例えば味や食感を表わすものなど、様々な表現の違いにも関心を持つようになってきた。このような取り組みは、日本の姉妹校から訪問した生徒に地域の地域を紹介する際にも役立っている。

3. まとめ

ここまで、台湾の後期中等教育について、学習者へのアンケート調査の結果と教員へのインタビュー調査の結果に基づいて、その現状と課題とを述べてきた。

その結果、構造的な面で高大接続、とりわけ大学入試での日本語テストと高校・大学での日本語教育カリキュラムとの整合性に問題があることが明らかになったものと思う。そのことが、ひいては学習者において日本語学習の動機づけの低下や大学進学の自己目的化などを生じているといえよう。また、教員の側においても、疑問や葛藤を感じながら教壇に立たざるを得ないという結果を招いているようである。

本稿の内容はあくまでも台湾の1教育機関内での調査に基づく報告ではあるが、問題が構造的なものであれば、台湾の後期中等教育の問題として、あるいは、台湾以外での（学校教育での）日本語教育においても、一般化して論じることが許されるものと考えられる。

台湾での後期中等教育における日本語教育について言えば、台湾教育部の教育政策はもとより振れ幅が大きいきらいはあるが、時代の変化に即応できる柔軟性を持っているとも言える。台湾での日本語教育が新たな転換期を迎えているとする指摘がある中で、それがより現場の意見をとりいれたものとなるよう希望して本稿の結びとした。

謝辞

本稿の作成にあたっては、別府大学文学部の内山和也先生にいくつかの貴重なアドバイスをいただいた。ここに記して感謝したい。

参考文献

内山和也（2018）「台湾の日本語教育の変質から学べること：日本語教育の向かう先に何かがあるのか」、『別府大学日本語教育研究』8, pp.31-37, 別府大学日本語教育研究センター。

岡本輝彦（2018）「新たな転換期を迎えた台湾
における日本語教育の現状と課題」、『別府大

学日本語教育研究』8，pp.3-11，別府大学日
本語教育研究センター。

(2020年3月30日受付、2020年6月7日再受付)